

【乗川 聡ゼミナール】 フィールドワーク・活動

タイトル	地域活動への第一歩を踏み出そう(乗川聡ゼミ)
対象地域	栃木県内
テーマ	大学生による放置竹林問題解決への取り組み
キーワード	地域活動 サードプレイス パラレルキャリア 関係人口 自律的チーム 放置竹林

乗川ゼミ(2年生)では、地域活動(ボランティア、ソーシャルビジネス)の経験がない大学生が、県内 NPO の活動への参加を通じて、地域が抱える様々な問題(少子高齢化、環境保全、コミュニケーション、etc.)を理解し、その具体的な解決策を考え、提案することを活動目的としています。したがって、ゼミ活動においては学外活動(フィールドワーク)を重視しますが、学生は、自らの活動の「理論的バックボーン」として、「サードプレイス」「関係人口」「パラレルキャリア」「自律的チーム」などの概念とその実例を、テキスト輪読やグループディスカッションを通じて学びます。

乗川ゼミがこれまで具体的に取り組んできた活動内容は多岐に及びますが、ここ数年は放置竹林問題に取り組んでいます。竹林整備活動への参加や、放置竹林の竹材を使用した竹ランタン制作・展示活動を行い、その成果を「ゼミ合同発表会」で発表していますが、2024 年度は栃木県の「大学地域連携活動支援事業」に採択され、栃木県内の行政機関や NPO 団体、企業と連携して実施した放置竹林問題対策活動の成果を栃木県庁で報告する機会を得ました。

● 放置竹林整備活動への参加(2024 年 4 月)

乗川ゼミでは春の恒例行事として、NPO 団体「トチギ環境未来基地」と地域団体「たけのわ町田本郷」が茂木町町田本郷地区で取り組んでいる放置竹林の整備活動に参加しています。2024 年度は乗川ゼミ生(2年生)20 名の他、地域経済学科 1 年生 10 名、理工学部のマレーシア人留学生 4 名が参加しました。学生たちは現地を実際に訪れ、竹を切り、運ぶ作業が体力を必要とするにもかかわらず、少子高齢化で作業に従事する人事が足りない現状を理解することになりました。



写真①



写真②



写真③

写真① 斜面での伐採作業。写真では伝わりにくいですが足場が悪く危険な作業

写真② 伐採した竹は使い道がないため、まとめて積んでおくか焼却するしかない

写真③ たけのこを掘ってその場で調理。竹になる前に食べるのも立派な放置竹林対策

● 竹ランタン制作・展示ワークショップの開催(2024 年 8～11 月)

竹林整備活動の他、乗川ゼミでは、放置竹林問題について啓発するワークショップを開催することで問題解決に貢献しようと考えました。ワークショップでは、ゼミ生がインストラクターとなり、放置竹林の竹材を使用したランタン制作を参加者に体験してもらいながら、放置竹林問題に関する話を聞いてもらうという方法を取りました。

ワークショップは宇都宮キャンパスで開催されるオープンキャンパスや学園祭で開催したほか、宇都宮の道の駅として有名なろまんちっく村でも開催し、いずれも多くの方々に参加していただきました。



写真④ ワークショップのポスター(学園祭、ろまんちっく村)。ゼミ生がデザインを担当



写真⑤



写真⑥



写真⑦



写真⑧

写真⑤ 学園祭で開催したワークショップ(11月2日)。ゼミ生の指導の下、参加者は竹材に型紙を張り付け、ドリルで穴を開ける作業を体験。

写真⑥ ゼミ生が事前に制作したランタンを暗室で展示。これを見てからワークショップに参加した方も多かった。

写真⑦ ろまんちっく村で開催したワークショップ(11月24日)。子供向けイベント会場の一角を借りて開催。

写真⑧ ろまんちっく村ワークショップの方は親子連れの参加者多数。

● 活動成果の発表(2024年12月～2025年2月)

乗川ゼミは、毎年12月に開催される「ゼミ合同発表会」に参加し、活動成果を発表していますが、2024年度は「大学地域連携活動支援事業」の規定に基づき、茂木町でも活動報告のためのイベントを開催しました(2025年1月25日)。その後、同事業の成果報告会が栃木県庁で開催され、ゼミ生の代表者が参加し、発表しました(2025年2月4日)。



写真⑨ 栃木県茂木町活動報告イベント



写真⑩ 竹ランタン 300本の展示

以上